

## 論文の内容の要旨

論文題目      A Study on Evaluation Structure of Riverscape and Recreation Activity  
Based on Naturalness of River Space– In Case of Tama River

(河川空間の自然度と景観評価構造及びレクリエーション活動に関する研究  
—多摩川を例として)

氏 名                      王 新 宇

近年の都市化の進行に伴う自然環境の減少により、都市部において自然との触れあいに  
対する住民の欲求は高まっている。河川空間は都市内に残る自然度の高い貴重なオープンス  
ペースであり、高度化する土地利用の中での河川空間の保全・整備とその活用は、今後の都  
市環境を考える上で重要な課題である。特に河川空間の質をどう考えるかは、人間の利用と  
河川の機能との関係、さらには生態学の問題を含めた非常に複雑な問題として我々の前に存  
在する。しかしながら、河川空間の評価や利用に関する研究はこれまで手薄であり、人々が  
どのような河川空間を評価し、河川を利用した活動がどのような条件で発生しているかにつ  
いては、ほとんどわかっていない。

本研究は、河川景観の評価に関する構造の解明とその植生的自然度との関係、および、河  
川を利用した活動との関係の分析を行うことを目的とした。季節によって植生状況が変化し、  
場所によってさまざまな自然環境が存在しうる河川景観の特徴を踏まえ、季節変動による河  
川景観変化、河川空間の自然度と景観評価の関係を主な着眼点としている点が特徴である。

研究方法は、独自に収集した各季節における 60 箇所の定点写真を用いた SD テストを主  
体とするアンケート調査とその分析が中心となっている。

本研究で得られた主な知見は以下の通りである。

### 1. 河川景観の評価構造について

- ・日本人の評価予測因子は季節を通じて非常に類似しており、これは評価の構造が季節に関  
わらず安定していることを示している。評価予測因子は、自然性、親密性、選好性、秩序  
性の4つである。
- ・河川景観はこれらの因子を用いて、自然風景タイプ・整然タイプ・準自然風景タイプ・荒  
地タイプの4つのタイプに分類される。

- ・ 季節による河川景観の認識および評価の変化は、水面と植生の条件に大きく影響を受けていることがわかる。

## 2. 景観評価の季節変化について

- ・ 非常に自然が豊かな地点、あるいは、非常に人工的な地点では、季節による景観評価の変化は小さい。
- ・ 景観構成が単純で、景観を構成する要素が少ない地点では、季節による景観評価の変化は小さい。
- ・ 季節による評価変動は「秩序性」の評価予測因子の変化によるものが顕著である。水面や植生の季節変動が「秩序性」の変化に強い影響を与えている。

## 3. 生態学上の「自然度」と認識上の「自然評価」の対応について

- ・ 生態学上の自然度が非常に高い地点、または非常に低い地点においては、その自然評価は自然度を比較的正確に反映し、評価者による個人差が少ない。
- ・ 自然度が中庸である地点の自然評価は評価者による個人差が大きい。こうした地点では景観構成が複雑な場合が多く、評価者によって着目する評価要素が異なるためと考えられる。
- ・ 水面および自然植生の存在は自然評価を高める。逆に人工的な植栽および設備の存在、背景における人工物は自然評価を低める。

## 4. 河川を利用した活動について

- ・ 河川空間で行われる活動を季節によって類型化した結果、季節によって類型が変動しない活動（安定的活動）と、変動する活動（季節変動活動）に分かれる。
- ・ 河川空間における活動は以下の6種類に類型化できる：水面関連活動、スポーツ、沿川活動、観賞活動、自然観察活動、休息活動
- ・ 安定的活動が発生する場所の条件は限定されており、特定の河川景観タイプがこれに対応する。

## 5. 河川景観評価と河川利用活動に関する中国人と日本人の比較

- ・ 評価構造については、差異が明白な点も多少あるが、全体としては一致する傾向が見られる。
- ・ 活動については、中国人と日本人の間で明確な差異が見られる。このことは、文化や習慣の違いが河川空間における活動の発生に強く影響していることを示すと考えられる。
- ・ 両国における河川条件の違い、特に河川空間の維持管理程度の違いが、河川の活動に対して強い影響を与えているためと考えられる。